

実践 県立志布志高等学校

1 はじめに

本校は、創立 105 周年を迎えた生徒数 405 人（12 学級）の中規模校である。正門横には、旧制中学・高等女学校時代の門柱が残され、また校内には、数百本にもおよぶ老松が聳え立ち、これまで歩んできた歴史の深さを感じさせる。現在、生徒たちは「叡・志・剛」の校訓の下、勉強や部活、活気溢れる学校行事等、文武両道をめざすべく充実した学校生活を送っている。校内における本の貸出冊数については、教師から生徒へ積極的に本の話語りかけ、生徒委員会活動等で地道に PR してきた結果、貸出冊数も平成 20 年度 2,417 冊から平成 25 年度 7,420 冊（一人当たり 17 冊）と徐々に増えてきた。

2 図書委員や生徒とつくる図書館 ～平成 26 年度の取組～

(1) 改装のきっかけ

図書館は独立棟で生徒の生活動線と交わらない場所にあるため、授業利用以外で生徒が来館することは極めて少ない。その時だけの利用では来館につながらず、また本を期限内に返す意識づけも難しい。

4 月に文部科学大臣表彰をいただき、全校生徒にとっても読書の大切さや読書を継続していくことへの関心が高まってきていることもあり、5 月の生徒総会では読書の時間を設けてほしいという提案がなされ、参加者 322 人中 97 人が賛成意見であった。

そこで、今年度は、生徒が来館したくなる図書館をつくっていかうと考えた。

(2) 図書委員が主体の取組 ---委員会での話し合い---

常連の生徒が日々来館しているが、その他にも読書をしたい生徒がいるとわかった。しかし大抵の生徒からは、図書館は重苦しい雰囲気、わざわざ行きたいと思わないという答えが返ってきた。これまで広報やイベント企画などで読書のよさを伝える活動をしてきたが、再度その活動を見直すことにした。見た目も明るくわくわくする演出、行けば何かありそうだと思うさせる図書館のイメージに改装して、その上でさまざまな図書館活動を行ったらより効果的なのではないか、という話し合いがなされた。

そこで、図書委員を中心にしながら常連の生徒も助っ人として、図書館 before after を進行中である。

(3) 具体的な活動

- ・ 遊び心のある立体的な常設特設コーナーを数か所設置するため、パズル、自然科学コーナーに置くペーパークラフトなど分担して作り、日頃からストックしている。
- ・ 本の入替え作業に伴い、長期間図書室内が雑然とするため、季節のモビールや切り紙を準備し、作業中も季節に応じた掲示をすることで、来館者にも改装後の期待感を持たせる。
- ・ 書架の老朽化が見られたため、頭上高所の全集類は重量もあることから書庫入れをした。また、鉄製の回転書架は転倒防止が難しく撤去、基本的に頭上に本や重量のあるもの



を置かないようにした。ガラスの入った書架もガラスを外した。

- ・ 図書は1冊1冊受入日や状態，利用頻度を調べて，除籍対象と利用されている本に分けている。個人全集はほぼ利用されていないことが確認



作業風景

できた。埋もれていて気づけなかった本も紹介していきたいなど，本を整理しながら図書委員間のコミュニケーションも円滑になっていった。

- ・ 利用していない古い本を除架し，まだ更新できていない分野は，購入している雑誌で対応できるものがあれば，バーコード装備し，同じ区画に配置することで一時的に補っている。



古い本を除架



進路に関する本を別置

3 校内読書週間の取組

年に一度，秋の校内読書週間に，朝の読書（約10日間）と一斉読書（統一LHR）に取り組んでいる。今年度は各クラス3作品ずつを読んだ。その後グループを作り，感想を述べ合ったことでお互いの感じ方・考え方の違いを知ることができた。



感想文綴り

また，各クラスで読まれた感想文を一冊にまとめ，他のクラスの生徒も読めるように図書室内に置いておくようにしたところ，興味をもって読む姿がみられた。

4 おわりに

学校図書館を大抵の生徒は見た目の雰囲気だけで判断しているところが大きい。不快でない楽しい場所かどうか，自分に必要な情報か。生徒たちが蔵書検索をするより見て探すことの方が多いことから，同じような感覚によるところが大きいと感じる。なぜなら，生徒たちには，図書館の分類より，配置や表示が感覚的にわかりやすいことが好まれるからである。このことから，整った設備はなくてもお手製で，リニューアルされ続ける図書館が，心地のいい共有空間になると言えるのではないだろうか。

機会があるときに次回に向けていた改装を，本も図書館も大事にしたい，みんなの学校の役に立ちたいと，図書委員が率先してやろうと言ってくれた。

学校全体で活動をバックアップしてもらっていることも図書委員の励みとなった。考えを尊重してもらえる環境が生徒たちの原動力になったのだと思う。年度内にテーブルや椅子も入れ替える予定である。少しずつ使い勝手がよくなっていくだろう。これからも生徒が主体的に考えていく参加型の取組を継続させていきたい。